

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04477

研究課題名(和文) 地方の教育要求と近代教育政策の受容に関する研究 - 進学ルートの形成と地域経済 -

研究課題名(英文) A Study on Local Educational Requirements and Acceptance of Modern Educational Policy

研究代表者

小宮山 道夫 (KOMIYAMA, MICHIO)

広島大学・森戸国際高等教育学院・准教授

研究者番号：60314720

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、地方経済と学習ニーズに注目しながら教育政策の地方に於ける受容過程について実証的に考察することである。具体的には第四高等中学校(第四高等学校の前身)を事例に、関連諸機関が所蔵する文書および北陸各地に散在する尋常中学校関連文書等の一次史料を用い、教育内容の分析と修学実態の分析を行うことを目指した。

福井県・富山県・新潟県・石川県の関連諸機関(福井県文書館、富山県立図書館、富山県公文書館、新潟県立図書館、新潟県立文書館、石川県立歴史博物館、金沢大学図書館、金沢大学資料館、石川県立図書館、金沢市立玉川図書館)における調査を完了し、北陸地域と第四高等中学校の関係を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

福井・新潟・富山・石川各県の公的資料保存機関に所蔵されている第四高等中学校に関連する史料情報をほぼ網羅的に把握した。重要史料については撮影・複写等により収集し、資整理・分析を実施した。

福井と新潟が金沢に設置する高等中学校に対して関心を示さず、従来通りの上京遊学志向を保ったり、高等中学校設立募金に先んじて独自の募金で既存学校を整備・維持するなど、制度及びそれを支える区域の一体感の欠如を示す事例を明らかにした。これは高等中学校制度がいかに地域実態をふまえたものではなく政府主導によるものであったこと示しており、地方の教育要求を政策側が十分に配慮しない限り政策目的を果たす事はできない教訓となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to examine empirically the acceptance process of educational policy in the region, paying attention to the local economy and learning needs. Specifically, in the case of the 4th Senior High School (predecessor of the 4th Senior High School), analysis and study of the educational content were conducted using the documents stored by related organizations and the primary historical materials such as the documents related to ordinary junior high schools scattered in various areas of Hokuriku. I aimed to analyze the actual situation.

I have completed a survey of related institutions in Hokuriku region, and clarified the positioning of the 4th Senior High School in the Hokuriku region.

研究分野：教育学

キーワード：教育史 学力論 地域 青年

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、平成 20～21 年度・若手研究(B)(課題番号 20730501)「1880 年代教育政策の動向と第五高等学校の実態に関する研究」、平成 22～24 年度・若手研究(B)(課題番号 22730621)「学校間接続関係の形成と近代教育政策の地方における受容過程に関する実証的研究」、平成 25～27 年度・基盤研究(C)(課題番号 25381030)「近代教育政策定着過程における中央と周縁に関する研究 地域の人材育成と高等学校」の助成を受け、一貫して近代の中等・高等教育の接続関係、教育政策の定着過程の解明に取り組んできた。

これらの研究を通じて、例えば次のことがわかった。第五高等学校を中心とした九州地方(第五区域)における近代教育政策の地方における受容過程、すなわち中等教育の構築過程について、区域内各県代表者会議での議論、学校内規の構造、高等学校入学者の出身校および生徒移動の動態など、一次史料を用いて高等学校の組織としての特徴や各県尋常中学校との接続関係の特徴を明らかにし、高等学校制度の受容の実態を考察した。さらに異なる地域間、具体的には九州地方と東北地方(第二区域)という東京・大阪・京都の 3 府の属す大都市圏から離れた地域の比較検討を行うことの必要性を強く認識し、その実像の解明に努めた。そこで直面したのは第五区域とは全く構造の異なる地域の経済力と地域が望む教育内容、すなわち学習ニーズの在り方であった。県ごとの差異はあるが寒村を多く抱える東北地方は都市部との経済格差が大きく、全体として初等教育の普及に苦心する一方で都市部では旧藩の人的・物的遺産を継承した先進的な中学校や各種学校も存在した。また仙台を東北地方の要衝地と認識しつつも東北地方の最高学府となりうる第二高等学校には関心が薄く、むしろ東京に出る選択肢も有力であった。仙台と東京との心理的競合は勝負にならなかったと推察できる。また、第二区域で必要とされた教育は帝国大学ほか上級学校へ進学してエリートとして将来的に国家や地域に貢献する人材ではなく、農学校や医学校など地域に直接貢献する人材の短期間での育成であった。

そこで中央と周縁という単純対比よりも、周縁の地域ごとの特性を見極め、地域経済と学習ニーズの存在にさらに注目した研究を別の区域に対しても行わなければ、本当の教育政策の定着過程の実態には迫ることができないと認識し、福井、石川、富山、新潟の 4 県で構成される第四区域を対象とした本研究を行った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地方経済と学習ニーズに注目しながら教育政策の地方に於ける受容過程について実証的に考察することである。具体的には 1886(明治 19)年から 1894(明治 27)年に存在した高等学校と尋常中学校との接続関係(アーティキュレーション)の形成過程、学校水準の整備過程という未解明の課題を解決することである。本研究では第四高等学校(第四高等学校の前身)を事例に、関連諸機関が所蔵する文書および北陸各地に散在する尋常中学校関連文書等の一次史料を用い、教育内容の分析と修学実態の分析を行う。そのことによって同校創設の教育政策的意図および近代教育制度史上の役割を明らかにする。本研究により歴史的事実から教育機関の発展・整理・統廃合の理想的な在り方への示唆を得ることを目指した。

3. 研究の方法

福井・新潟・富山・石川各県の公的資料保存機関に所蔵されている第四高等学校に関連する史料情報を調査し、撮影・複写等により収集する。資料調査により第四高等学校に関わった第四区域内の尋常中学校関係資料の完全把握を実現する。既に概要を把握している四高文書と関連史料のみにより研究成果をまとめる。

- (1) 第四高等学校に受験実態(合格・進学実態ではなく)のある北陸各県の尋常中学校関係史や先行研究を悉皆調査・収集する。
- (2) 四高文書の教育内容に関わる簿冊の完全撮影につとめる。
- (3) 収集した各史料を精読し、生徒移動の実態に重点を置いて分析する。
- (4) 四高の内部規程(「校規」「内規」「職務」「君理・内規・通達」「生徒例規」など)による制度設計をもとに、生徒に関する規則の運用の実態について分析する。
- (5) 収集した文書画像データや調査報告等のテキスト類の保存・蓄積・データベース構築を随時実施する。

以上の調査に基づき四高と北陸全域および他地域の尋常中学校との連絡関係を分析することとする。四高文書に加え、各尋常中学校の関係資料を詳細に分析することにより、従来の高等学校研究もしくは四高研究の水準を引き上げ、教育内容・水準の面から高等学校がその時代においてどのような役割を果たしたかを明らかにするよう計画をした。

4. 研究成果

研究期間を通じ、福井県・富山県・新潟県・石川県の関連諸機関で収集した資料の整理・分析を実施した。福井県においては福井県文書館を調査し、県史編纂時に収集した新聞資料および同編纂時に作成された資料目録のデータを利用することにより、1880 年代の新聞に掲載された情報を整理することができた。富山県では富山県立図書館および富山県公文書館を調査し、『富山県教育会五十年史』ほか関連する文献に目を通した上で、1886 年の『新潟県学事通報』や富山県教育会発行の『教育大会記録』(1906 年)および『教育大会記録』(1914 年)の複写による資料収集が実施できた。新潟県では新潟県立図書館および新潟県立文書館を利用し、新潟県史編

纂関係者との面談を通じて資料状況の示唆を受けることができた。『長岡教育資料』(1917年)、『新潟新聞』1885～1888年の確認を実施できた。石川県では石川県立歴史博物館および金沢大学の四高関係文書を確認し、『寄宿舎当直記要』『舍務事件綴込』『第四高等学校校友会雑誌』『十全会会誌』『学業成績簿』『職員履歴』等の重要資料の収集を実施できた。金沢大学、石川県立図書館および金沢市立玉川図書館にそれぞれ所蔵する『久徴館同窓会雑誌』1888～1893年も掌握しほぼ全冊の撮影を完了した。

以上で得た資料および知見をもとに、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』編集委員会編『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、中国四国教育学会編『教育学研究紀要』、中等教育史研究会『中等教育史研究』等に成果を報告した。一覧を示すと以下の通りとなる。

1. 小宮山 道夫「『久徴館』のめざすもの(1)」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第61号、37～40頁、2020年1月。
2. 小宮山 道夫「『久徴館同窓会雑誌』の会員通信」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第60号、39～41頁、2019年12月。
3. 小宮山 道夫「『久徴館同窓会雑誌』第一号の概要」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第59号、36～38頁、2019年11月。
4. 小宮山 道夫「『久徴館』発足時の位置と規模」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第58号、42～45頁、2019年10月。
5. 小宮山 道夫「加能越三州人の寄宿所「久徴館」の同窓会」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第57号、35～37頁、2019年9月。
6. 小宮山 道夫「書評 谷本宗生著『学都金沢形成の様相：近代日本官立高等教育機関の設置過程』」、『全国地方教育史学会『地方教育史研究：全国地方教育史学会紀要』、査読無、39号、69～77頁、2018年。
7. 小宮山 道夫「『新潟新聞』にみる高等中学校関連記事 高等中学資金募集批判」、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第41号、28～31号、2018年5月。
8. 小宮山 道夫「『新潟新聞』にみる高等中学校関連記事 高等中学資金寄付に対する社説」、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第40号、36～38頁、2018年4月。
9. 小宮山 道夫「書評 谷本宗生著『学都金沢形成の様相：近代日本官立高等教育機関の設置過程』」、『全国地方教育史学会『地方教育史研究』39号、69-77頁、2018年
10. 小宮山 道夫「『新潟新聞』にみる高等中学校関連記事 高等中学校設置趣旨と高等中学資金募集要領」、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第36号、36～38頁、2017年12月。
11. 小宮山 道夫「『新潟新聞』にみる高等中学校関連記事 当該期の新潟地域の新聞について」、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第35号、23～24頁、2017年11月。
12. 小宮山 道夫「和崎光太郎『明治の青年』」、『京都大学大学院人間・環境学研究科『人環フォーラム』、査読無、No.36、45頁、2018年2月。
13. 小宮山 道夫「新潟県関係資料にみる第四高等学校：高等学校設置の模索」、『中国四国教育学会『教育学研究紀要』、査読無、63(2)、531-536頁、2017年。
14. 小宮山 道夫「明治前期福井県青年の扶助組織とその演説(五)」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第30号、31～33頁、2017年6月。
15. 小宮山 道夫「明治前期福井県青年の扶助組織とその演説(四)」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第29号、30～31頁、2017年5月。
16. 小宮山 道夫「明治前期福井県青年の扶助組織とその演説(三)」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、前第28号、32～33頁、2017年4月。
17. 小宮山 道夫「福井県新聞記事にみる第四高等学校とその周辺：伝えられた高等中学校情報の特徴」、『中国四国教育学会『教育学研究紀要』、査読無、62(2)、364-369頁、2016年。
18. 小宮山 道夫「明治前期福井県青年の扶助組織とその演説(二)」、『月刊ニューズレター現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第24号、29～30頁、2016年12月。
19. 小宮山 道夫「明治前期福井県青年の扶助組織とその演説」、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』、査読無、第23号、31～34頁、2016年11月。
20. 小宮山 道夫「斉藤利彦編『学校文化の史的探求』：中等諸学校の『校友会雑誌』を手がかりとして」、『吉川弘文館『日本歴史』、査読無、816号、111-113頁、2016年5月。

本研究では、福井県と新潟県が金沢に設置する高等中学校に対して関心を示さず、従来通りの上京遊学志向を保ったり、高等中学校設立募金に先んじて独自の募金で既存の長岡学校を整備・

維持する動きを見せたりするなど、高等中学校を度外視した動きを見せており、高等中学校制度及びそれを支える第四区域の一体感の欠如を示す事例を明らかにすることができた。富山県と石川県では第四高等中学校に生徒をこれは高等中学校制度がいかに関与した地域実態をふまえたものではなく政府主導によるものであったこと示していよう。このことは教育政策の目的を実現するためには、地方の教育要求の実態を政策側が十分に配慮したうえで改革案を策定しない限りその政策が受容されることはないことを示している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 40
2. 論文標題 『新潟新聞』にみる高等中学校関連記事 高等中学資金寄付に対する社説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 41
2. 論文標題 『新潟新聞』にみる高等中学校関連記事 高等中学資金募集批判	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 39
2. 論文標題 書評 谷本宗生著『学都金沢形成の様相：近代日本官立高等教育機関の設置過程』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地方教育史研究	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 63(2)
2. 論文標題 新潟県関係資料にみる第四高等中学校 高等中学校設置の模索	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 531-536
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 36
2. 論文標題 和崎光太郎『明治の 青年 』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人環フォーラム	6. 最初と最後の頁 45-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 62
2. 論文標題 福井県域新聞記事にみる第四高等学校とその周辺－伝えられた高等学校情報の特徴－	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 364-369
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 816
2. 論文標題 斉藤利彦編『学校文化の史的探求』：中等諸学校の『校友会雑誌』を手がかりとして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 111-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 23
2. 論文標題 明治前期福井県青年の扶助組織とその演説	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 35
2. 論文標題 『新潟新聞』にみる高等学校関連記事 当該期の新潟地域の新聞について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて	6. 最初と最後の頁 23-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮山道夫	4. 巻 57
2. 論文標題 加能越三州人の寄宿所「久徴館」の同窓会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて	6. 最初と最後の頁 35-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小宮山道夫
2. 発表標題 第三高等学校医学部の産科講義ノート
3. 学会等名 広島医学史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小宮山道夫
2. 発表標題 新潟県関係資料にみる第四高等学校
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小宮山 道夫
2. 発表標題 福井県関係史料にみる第四高等学校
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>小宮山道夫関連リンク http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/ 月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考